

平成29年度 調布市立第二小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度 優先順位
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「二小スタンダード」を徹底し、授業規律を身に付けようとしているということに関して保護者の満足度は80.6%（昨年度77.3%）と低くなっており、課題と言える。 ・「わからない」との回答は5%であった。昨年度の14%からは大幅に減少している。「二小スタンダード」への取り組みに関しては保護者に理解してもらえていると考える。 ・小グループでの話し合いで考えを交流する活動は少しずつ定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「二小スタンダード」について、保護者の満足度が昨年度より若干低下が見られるとのことであるが、具体的にどのようなことが原因と考えられるのかを考察し、それに基づいて策を講じる必要があるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「二小スタンダード」について全教員による共通理解を十分に図り、話の聞き方、発言の仕方等を統一的に確立、定着させる。参観日ごとに「二小スタンダード」の定着度を保護者から評価してもらうようにする。家庭での指導の協力を依頼していく。 ・自分の考えをしっかりとらせる指導を徹底する。自分の考えをもった上で、小グループや全体での話し合い活動を取り入れ、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えと比べたりする授業を創造し、実践する。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導に関する保護者の満足度は82.9%と少し低くなっている。算数に限らず個に応じた指導を徹底し、児童の自己肯定感を高めていく。 ・「東京ベーシック・ドリル」は、1学期から取り組み、3学期中に全員が習得することができた。 ・年間を通して60分授業を展開し、確実に反復学習をすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の学力や理解度に応じた対応は引き続き力を入れてほしい。学校教育において大切にしなければならないことの一つである「学力の底上げ」という観点からもできる限り工夫して臨んでいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて課題を選択するなど全員がすすんで課題に取り組めるように工夫する。また、ねらいを分かりやすく提示し、最後に振り返ることで達成感を味わうことができるような授業が展開できるように指導していく。 ・東京ベーシック・ドリルを活用し、算数科ではより習熟の程度に応じた習熟度別指導の徹底を図る。 	B
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動はPTA・地域関係者と連携し、予定通り実施することができた。 ・たてわり活動などを通した豊かな心の育成に関する保護者アンケートの満足度は、95.4%と非常に高い評価を得ている。 ・フレンドリータイムは、年間指導計画通り、各学年11時間指導し、対人関係力の育成を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二小の児童は、比較的進んで挨拶をする子が多い様に思う。教職員をはじめ、地域の方々を巻き込んでの「挨拶運動」など、大人が進んで挨拶することを心がけてきた結果であると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動は引き続き重点項目として取り組む。児童会活動での取組も視野に入れていく。 ・たてわり班活動についても引き続き実施する。 ・フレンドリータイムは、特色ある教育活動として継続する。年間11時間を学校裁量の時間で計画する。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ・心の状態調査」の実施と学級担任等の観察により、いじめの未然防止、軽度での解決を図ることができた。 ・スクールカウンセラーと連携して、児童の心の状態を探ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」については、学級担任等の観察やスクールカウンセラーとの連携により未然防止や解決に至ったことは大いに評価すべきである。「いじめ」にあう児童と「いじめ」をしてしまう両者の心理を探ることは必要不可欠である。また、「いじめ」をしてしまう側の家庭環境なども一因となっていることもあるので、そのような視点を持って探る必要もあるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ、心の状態調査」については継続して、年3回実施するとともに、いじめの根絶に向けて、学校だより等で家庭・地域に対して啓発及び協力を依頼していく。 ・5年生児童は全員、次年度も引き続きスクールカウンセラーとの面接を行う。 ・教員の人権感覚を高めるための研修会を計画的に実施する。 	A
健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりの取組についての保護者アンケートの満足度は95%と良好であった。 ・8月に校医の歯科医師を講師に招き、民生児童委員・保健師・すこやか職員・保護者の参加の下、学校保健委員会を行った。 ・夏季休業明けに、「朝の生活しらべ」を行った。その結果を受け、発育測定時の保健指導をもとに取り組んだ内容を保健だよりで知らせ、家庭生活の中での健康づくりの大切さを啓発することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の一環として、金曜日の給食後に清掃を行わずに遊び時間を確保することは引き続き行ってほしい。また、放課後や休日の過ごし方についても調査し、それに応じた啓蒙も行うべきだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の協力を得て、「朝の生活しらべ」は引き続き実施する。 ・学校保健委員会は、二小の児童の健康状態について報告し、その後校医からの助言や講話を、保護者も交えて聞く会とする。発達障害をテーマにすることも視野に入れて計画を立てる。 	C
	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の取組に関する保護者アンケートの満足度は、78.3%であり、課題と言える。 ・体力・運動能力調査では、男子が19項目女子が25項目調布市の平均を上回った。（昨年度男子13項目女子14項目） ・コーディネーション・トレーニング地域拠点校としての研修会、説明会を行った。また、体育の授業に少しずつトレーニングを取り入れている。 ・かけっこ教室なわとび教室、FC東京キャラバン隊などのスポーツ教室を実施した。 ・マラソン集会をスタートにマラソンカードに取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力、運動能力調査において、男女共に調布市に平均を上回った項目が大幅に増えたことは大いに評価できると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した体力向上の取り組みを検討し、取り組んでいく。コーディネーション・トレーニングは、継続して体育の時間に取り入れていく。 ・一流のアスリートを招請するスポーツ教室については、年間を通してバランスよく取り組んでいく。また、保護者の参観を呼びかけたり、内容の広報を充実したりするなどした、保護者にもオリンピック・パラリンピック教育の意義を啓発していく。 	A
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に関する保護者アンケートの満足度は80.5%と低くなっている。情報発信をより充実していく。 ・学校を公開する機会に関する保護者アンケートの満足度は96.0%と非常に良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議委員会において、給食をいただきながら和やかな雰囲気での会議を行えることは、互いに意見が出しやすく教職員と地域がつながれる機会の一つとしてとても有意義である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・速報性かつ柔軟性のあるホームページを目指し、より一層開かれた学校づくりを推進する。 ・次年度も本校の特色である「たてわり班活動」の参観ができるように学校公開日を計画する。また、授業のみならず給食指導や清掃指導等の様子も公開していく。希望の多い、土曜参観日も一日増やす。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携に関する保護者アンケートの満足度88.6%（昨年度84%）であった。現在、地域のスーパーマーケットや事業所、消防署の見学を行っている。また、お箏教室や落語教室、茶道教室など地域の人材を活用している。 ・学校評議員会を年3回開催し、学校運営について意見を求めることができた。また、必要に応じて学校の状況を説明し、取組の方向性について助言をいただいた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の地域行事への参加を促し、地域との連携を更に強化していく。 ・地域や保護者の方々からの協力を得て、芝生を介在にした一層の協力体制を構築する。 	B
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・9月にお箏教室を3・4年生に実施し、取り組み内容を10月の学校公開で保護者に披露することができた。 ・10月に4年生を対象に落語教室を実施した。 ・12月の音楽発表会では、ゲストに招いた打楽器奏者、ギター奏者、リコーダー奏者の一流の演奏に触れることができた。 ・茶道教室は、2月に6年生を対象にして実施した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・演奏家、落語家、芸術家（茶道）は予算の許す範囲で引き続き招き、日本文化理解を深められるようにする。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員、スクールサポーターが協議し、個別の取り出し指導を含めた特別な支援を要する児童への支援体制を整えることができた。 ・巡回指導で来校するいしわら学級の指導者や巡回相談での専門家からの助言を生かし、一人一人に合った支援の方法を模索することができた。 ・ブラインドサッカー体験やボッチャ体験、副籍交流等を通して障害者理解を深め、パラリンピックへの関心も高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心に、関係諸機関との連携を大切にしながら、課題となっている適正就学につなげるようにする。 ・通常学級に見られる軽度発達障害について、保護者を対象とした研修会を、既存の会合と統合させて開催できないかを検討し、実現させていく。 	B